

推論発問および評価発問を活用した英語リーディング指導の実践 —高等学校における1年間の実践事例を通して—

Reading Instruction in English Using Inferential and Evaluative Questions:
Based on High-School Lessons Conducted over a Period of a Year

田中 武夫* 辻 智生**
TANAKA Takeo TSUJI Tomoki

要約：学校教育における英語リーディング指導の課題の1つに、教科書の英文テキストの内容をどのように生徒に深く理解させ、テキスト内容をもとにどのように生徒の意見や考えを英語で表現させるかという課題がある。英文テキストの深い理解と豊かな表現を促すための指導方策として、読解指導において教師が発問を効果的に活用することが重要であることをこれまで筆者は提案してきた。しかし、発問にはどのような効果や課題が実際の読解指導において見られるのかはまだ十分に明らかにされていない。そこで、本論は、ある高等学校において1年間通して行われた、推論発問、および、評価発問を活用した英語リーディング指導の実践の指導結果について報告する。とくに、読解指導における推論発問、および、評価発問を長期間にわたって活用する実践を行った結果、推論発問および評価発問を生徒はどのように認識しているかについて質問紙調査を行った。その結果をもとに、読解指導における推論発問および評価発問の活用に対する考察を行う。

キーワード：リーディング指導、推論発問、評価発問

I. 研究の背景

1. 英語授業における読解指導の工夫

2009年の高等学校学習指導要領(外国語)の改訂に伴い、「英語の授業は英語で行うことを基本とする」ことが明記され、どのように英語のリーディング指導を進めていけばよいかという課題が着目されるようになった。また、高等学校における英語のリーディング指導では、英文テキストの表面的な意味理解にとどまらず、テキスト主題や筆者の意図を深く理解させたり、テキスト内容に対する生徒の考えや意見を述べさせたりする指導が、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を重視する言語指導の一環として、これまで以上に求められるようになった。しかし、リーディング指導の現状としては、依然として、和訳や文構造の解説に多くの時間が割かれている。その結果、筆者の意図を深く読み取らせたり、テキスト内容をもとに生徒の意見や考えを英語で表現させたりする活動は十分に行われておらず、学習指導要領が目指す指導とはかけ離れた指導がなされているといった高等学校における英語授業の課題が指摘されている(e.g., Kikuchi, 2009)。

そのような現状の中、いかに効果的に英語のリーディング指導を行うべきかは、英語教育の重要な課題の1つである。その解決策を考える糸口として、筆者はこれまで読解発問の活用方略について提案を行ってきた(e.g., 田中・田中, 2009)。発問とは、生徒に対する教師の問いであり、生徒が

* 教育人間科学域 教育学系 ** 福井県立敦賀高等学校

主体的に読解教材や読解活動に向き合えるよう、授業目標の達成に向けた計画的な教師の働きかけを指し、リーディング教材の内容に迫る教師の計画的な発問が、生徒の主体的な読解や豊かな表現を促す起点の1つになるものと考えられる。

読解発問は、事実発問、推論発問、評価発問の3タイプに分けられる (Been, 1975)。表1は、英文 “Mari flies to the Occident twice a year to buy fashionable clothes.” をもとにして考えられる3つのタイプの発問を提示している。

表1. 3つの発問タイプ

タイプ	教師の発問例	生徒の回答例
事実発問	例1) Where does she go twice a year?	She goes to the Occident.
推論発問	例2) Does she have a lot of money?	Yes, she does.
評価発問	例3) Imagine you have a lot of money. Would you like to spend the money on fashionable clothes?	No, I wouldn't. I would like to save the money.

事実発問とは、テキスト上に直接書かれた情報を読み取らせる発問をさし (例1)、推論発問とは、テキスト上には直接示されていない内容をテキスト情報と読者の背景知識から推測させる発問をさす (例2)。そして、評価発問とは、テキスト情報に対する読み手の考えや態度を表明させる発問である (例3)。これらの発問の中でもとくに、推論発問、および、評価発問には、生徒から異なる解釈や考え方を引き出す特徴があることから、テキスト情報を読む生徒の動機を高める、生徒の読みを深く豊かにする、生徒同士の協同学習を促すなどといった、読解指導における様々な可能性があると考えられる (e.g., 田中, 2010; 田中・島田・紺渡, 2011)。しかし、深澤 (2008, 2010) は、高等学校で使用される検定教科書における読解発問のバリエーションを調査した結果、発問タイプの中でも事実発問が大部分を占め、推論発問や評価発問のような発問は十分に活用されていないことを指摘する。したがって、バランスの取れた発問タイプを活用すれば、より効果的な読解指導ができる可能性があるものと考えられる。

2. 本研究の研究課題

しかしながら、これまでのところ、推論発問や評価発問を取り入れた実際の英語リーディング指導に、どのような効果や課題が見られるのかについて十分には明らかにされてきていない。そこで本論では、高等学校において1年間通して行われた、推論発問および評価発問を活用した英語リーディング指導の結果、推論発問および評価発問に対し生徒はどのような手応えと課題を認識したのかについて報告する。

II. 指導

1. 指導実践の内容

福井県内の公立高等学校普通科1年38名を対象とし、平成25年4月から平成26年3月までの指導期間を対象とした。指導に当たった教員は教員歴17年である。本研究の対象となる発問を活用した読解指導は、「コミュニケーション英語I」において実施された。この授業で使用された教科書は、高等学校検定教科書である Genius English Communication I (大修館書店) である。「英語の授業は英語で行う」という文部科学省の指針に従い、授業のほとんどの部分において、教師は英語を用いて授業を行い、生徒には英語を使わせることとした。週に4回ある授業のうち1回は、外国語指導助手 (ALT: Assistant Language Teacher) が授業に参加し、通常のレッスンで扱った話題を取り上げ、プ

レゼンテーションやスピーチなどの表現活動を行った。

授業は、表2に示すような展開パターンで行われた。授業前の予習として、生徒に教科書本文をノートに書かせ全文の和訳を書かせることを課した。毎回の授業のウォームアップ活動に、教科書本文に関連した話題をもとにペアになって英語で会話させ、毎週末のALTとのチームティーチング（TT）の授業では、ペアで会話をさせたものと同じ話題について英語で書かせる活動を課した。

表2. 授業の大まかな展開パターン

段階	展開	内容	
授業前	予習	ノートに教科書本文を写し、全文和訳をする	
	ウォームアップ	ウォームアップとして本文に関連した内容をペアになって英語で会話する	
	語句の確認	教科書本文の新出単語の意味・発音等を確認する	
	教科書本文の内容確認	ワークシートを配付し、《事実発問》をもとに本文を読み、内容を確認する	
	授業中	文法事項確認	全文は訳さず、重要事項が含まれている箇所のみ文法事項を確認する
		教科書本文の音読	教科書本文を様々なタイプの形で音読させ英文と対峙させる
		教科書本文の内容理解	《推論発問》を用いて、書かれていない内容を推測させ内容理解を深める
	本文内容をもとに表現	《評価発問》を用いて、本文内容をより深く考えさせる表現活動に取り組む	
TT授業	プレゼンやスピーチ	本文に関して自分の意見を発表させ、他者の意見を聞き評価させる	

2. 教科書本文の扱いについて

まず、教科書本文の新出語彙の確認を簡単に行った。問いが印刷されたワークシートを生徒に配付する。生徒は教科書本文を和訳するのではなく、以下で解説する問いを通し、生徒の本文内容の理解を促した。教科書本文中の重要な文法事項については、教師が日本語を用いて解説を行い、重要事項のポイントを確認した。本文の基本的な内容理解ができた段階で、一斉音読やペア読みなどの形で、教科書本文を声に出して読ませる音読活動を行った。授業後には、パートごとの教科書本文の和訳を配付し、日本語の確認を簡単に行った。

3. 読解指導で活用した発問の例

読解のための発問はすべてワークシートに印刷し、授業中に生徒に配付された。読解発問は、毎レッスンの中で、事実発問、推論発問、評価発問の順で生徒に提示された。以下に、Genius English Communication I の Lesson 8 の Part 2 における発問の例を提示する。事実発問は、What does “those goods” refer to in the phrase “to import those goods” of the text? (教科書本文の “to import those goods” の “those goods” が指しているものは何か?) のように、テキスト上に直接書かれた情報を正確に読み取らせる目的で用いられた。推論発問は、What is the author’s message of Part 2, using the phrase “virtual water”? (“virtual water” という考え方を通して Part 2 で筆者が伝えたいメッセージは何か?) のように、テキスト上には直接示されていない内容をテキスト情報と生徒のもつ背景知識から推測させ、テキスト内容をより深く理解させる目的で用いられた。そして、評価発問は、Do you agree with the idea, “We should stop eating gyudon”? Explain the reason why you think so. (“We should stop eating gyudon.” という考えにあなたは賛成か反対か? 理由も述べてよ) のように、読み取ったテキスト内容に対する読み手としての考えや態度を表明させ、テキスト内容の読みを深めると同時に生徒の英語

での表現力を高める目的で用いられた。1つのパートにつき、これらの事実発問、推論発問、評価発問を10問程度、英問英答の形で1年間継続して行った。今回の指導で用いた教科書は、1つのレッスンにつき4つのパートから構成されており、1年間の指導を通し、合計9つのレッスンが実施された。

Ⅲ. 質問紙調査

質問紙調査の目的は、英語の読解指導における推論発問や評価発問の活用について、今回の指導を受けた高校生はどのように捉えているのかを調査することにある。

調査対象は、上記の指導を受けた普通科の1年生38名のうち、37名（男子17名：女子20名）である（質問紙調査を行った当日の欠席者1名を除く）。なお調査対象者には、英語圏での1ヶ月以上の生活経験者はいなかった。また、中学校での英語授業で教師が英語を使って授業を実施していたかどうかを尋ねた結果、27人が「いいえ」と回答し、10人が「はい」と回答していることから、英語授業での英語使用の頻度は不明であるものの、教師の英語使用はあまり多くないと考えられる。

本調査で用いた質問紙は、氏名記入の形式で、全17の質問項目から構成されていた。本研究の対象とする質問項目は、そのうち質問2、4、6、10、11、12、15は、5件法の選択式で、質問13、14、16、17は自由記述式であり、これらの11項目について本論文では検討する（資料1）。実際の授業では「推論発問」や「評価発問」という名前を生徒の前では使用していなかったため、質問12では推論発問を「読みを深める問い（行間を読む問い）」とし、質問15では評価発問を「本文内容について自分の考えを表現する活動」という表現を使用した。

調査の手順としては、平成26年3月14日に、教室で質問紙調査を実施した。回答時間は、15分程度であった。質問紙調査を実施後、自由記述のデータをエクセルに入力し分析を行った。質問紙の自由記述は、各記述にコード化をして分析を行った（資料2を参照）。コード化は、まず、すべての自由記述に暫定的なサブコードを付け、その後サブコードを包括する上位概念にあたるコードを確定した。その後、第2著者によるコード化の確認を行った。回答人数の少ないコードについても、発問のあり方を考えるための参考資料として分析対象に含めることにした。

本研究において実際に指導を行った教師に対し、推論発問および評価発問を活用した実践に関する手応えや課題について尋ねるため、自由記述式による質問紙の形で、平成26年5月24日に調査を行った。なお、質問紙による調査の結果から得られた教師からの回答は、考察の補助として用いることにした。質問項目および回答については、資料3に掲示する。

Ⅳ. 調査結果

1. 5件法の質問項目の結果

今回実施した質問調査のうち、5件法による質問項目の結果は、以下の通りである。

(1) 英語で行う英語授業に対する不安感について

質問紙調査の質問2と質問4において、4月の時点での英語で行う英語授業への不安度（ $M=3.59$, $SD=1.07$ ）と2月の時点での不安度（ $M=2.22$, $SD=1.00$ ）の間には、 t 検定の結果、統計的にみて有意な差が見られ大きな効果量も見られた（ $p=0.001$, $d=1.33$ ）。1年近くの英語授業を生徒が受ける中で、教師が英語を使って授業を行うことに対する生徒の不安感は小さくなったことが明らかとなった。質問6では、英語で行う英語授業を受けてよかったかどうかを生徒に尋ねているが、ここでも概ね

表 3. 質問項目の結果：平均値・標準偏差・スケールごとの回答頻度 (n=37)

項目	内容	M	SD	そう思わない ←→ そう思う				
				1	2	3	4	5
質問 2	4月時に英語で行う英語授業に不安はあった？	3.59	1.07	2	6	1	24	4
質問 4	2月時に英語で行う英語授業に不安はあった？	2.22	1.00	8	19	5	4	1
質問 6	英語で行う英語授業を受けてよかったか？	4.24	0.72	0	0	6	16	15
質問 10	英語で読む力は伸びたと思うか？	4.00	0.47	0	0	4	29	4
質問 11	英語で表現する力は伸びたと思うか？	4.00	0.41	0	0	3	31	3
質問 12	推論発問はよかったと思うか？	4.14	0.54	0	0	3	27	7
質問 15	評価発問はよかったと思うか？	4.24	0.64	0	0	4	20	13

良かったとの回答 ($M=4.24, SD=0.72$) を得ていることから、長期間にわたり教師が英語を使った英語授業を継続して実践することで、生徒には英語に対する慣れが生じ、英語を中心とした授業スタイルに肯定的になったことがこの結果からわかる。

(2) 英語で読解する力や表現する力は伸びたかどうかについて

質問紙調査の質問 10 と質問 11 において、生徒自身が 1 年間の指導を通して、英語で読解する力および表現する力が伸びたと思うかどうかを尋ねた結果、それぞれ概ね伸びたとする回答を得た（読解力： $M=4.00, SD=0.47$ ；表現力： $M=4.00, SD=0.41$ ）。全体として、生徒自身が英語での読解力と表現力に伸びがあったと感じていることが明らかとなった。また、教師の質問紙調査結果からも、「自分の意見を表現することに躊躇しない生徒が増えてきたこと」が挙げられていた。

(3) 推論発問および評価発問はよかったかどうかについて

質問紙調査の質問 12 と質問 15 において、読解指導の中で用いられた推論発問および評価発問についてよかったかどうかを尋ねた結果、それぞれの発問の活用に対し、概ね肯定的な回答を得た（推論発問： $M=4.14, SD=0.54$ ；評価発問： $M=4.24, SD=0.64$ ）。本調査が対象とする高校生は、全体的に、推論発問および評価発問に対して肯定的に捉えていることがわかった。

2. 自由記述の質問項目の結果

次に、推論発問および評価発問に対する生徒の意識について尋ねた自由記述の質問項目の結果を掲示する。質問 13 では、推論発問に対してよかったかどうかを尋ねた質問 12 での回答の理由を尋ね、質問 14 では、推論発問の活用に対する改善点について尋ねた。

(1) 推論発問の良い点について

質問 13 では、推論発問がよかったかどうかを尋ねた質問 12 の回答を受けて、そのように答えた理由を尋ねた。その結果、質問 13 の記述総数は 37 あり、そのうち推論発問の良い点についての回答は 34 あり、推論発問に対する否定的および無関係な回答は 3 あった。質問 14 で推論発問の改善点を尋ねているため、これらの推論発問に対する否定的な 3 つの意見については分析対象から除外し、推論発問の良い点についての 32 回答のみを分析対象とした。分析の結果、コードの項目数は 7 であった（表 4 参照）。

質問 13 の結果 (表 4) を見ると、推論発問の良い点として「内容理解が向上する」ことが第 1 位の項目として挙げられる。サブコードとして、「概要理解が促進される」、「談話レベルでの理解が促進される」、「内容理解が深まる」、「筆者や登場人物の考えを知ることができる」、「読解力が向上する」ことが挙げられている。これらのことから、英文テキストを読む際、推論発問が内容理解を促す働きをしていると生徒から肯定的に捉えられていることがわかる。

推論発問の良い点として第 2 位の項目として挙げられたのが、「思考力が向上する」である。サブコードとして、「応用力が身に付く」、「想像力が身に付く」、「社会的な背景を学べる」、「英語以外の力もつく」が見られた。推論発問は、テキストに書かれている事実情報をもとに、テキストには書かれていない事柄を推測させる問いであるため、考える力を向上させる働きがあると生徒に捉えられていることがわかる。

推論発問の良い点として第 3 位の項目として挙げられたのが、「表現が自由にできる」である。サブコードとして、「友達の考えがわかる」が挙げられた。正解が 1 つである事実発問とは異なり、生徒から異なる考え方が出る自由度のある推論発問の特徴を、推論発問の良さとして生徒が感じていることがわかる。同じく第 3 位の項目として、「何度も繰り返し読む」ことが挙げられた。推論発問が、生徒の読みを効率的に促してくれる点に、そのよさを感じている生徒がいることがわかる。

その他にも、「表現力が向上する」、「英語の楽しさがわかる」、「内容の理解度を確認できる」というコードが挙げられ、推論発問では、本文に書かれていない内容を推測し答えるという特徴があることから、表現力の向上や楽しさにつながったものと考えられる。

(2) 推論発問の活用についての改善点について

質問 14 では、推論発問の活用についての改善点について尋ねた。質問 14 の記述総数は 36 あり、そのうち無回答が 1、「とくになし」、および「今のままでよい」とする回答が 22 あった。分析の結果、表 5 に示すように、コードの項目数は 6 であった。

質問 14 の結果 (表 5) を見ると、推論発問の改善点の第 1 位の項目として、「問いを易しくする」が挙げられた。そのサブコードとして、「しっかりと内容理解をさせて欲しい」と「考える時間を長くする」があった。このことから、推論発問を考えるために英文テキストの内容理解を確実にしておきたいと思う生徒や、推論発問に答えるための考える時間を十分に確保してほしいと思っている生徒がいることも、推論発問はチャレンジングな課題であると捉えている生徒が少なからずいることがわかる。比較的容易な事実発問と比べ、推論発問は難易度が高まることから、よりシンプルな推論発問を希望したり、推論発問を考えるための支援を希望したりする生徒がいるものと理解できる。

推論発問の改善点の第 2 位の項目として、「友達との意見交換の時間を作る」と「さらに長い文章

表 4. 質問 13 の結果 (n=34) 推論発問の良い点

順位	コード	人数
1 位	内容理解が向上する	15
2 位	思考力が向上する	11
3 位	表現が自由にできる	3
4 位	何度も繰り返し読む	2
5 位	英語の楽しさがわかる	1
	表現力が向上する	1
	内容の理解度を確認できる	1

表 5. 質問 14 の結果 (n=14) 推論発問の活用についての改善点

順位	コード	人数
1 位	問いを易しくする	4
2 位	友達との意見交換の時間を作る	3
2 位	さらに長い文章にする	3
4 位	英語表現について解説する	2
5 位	簡単な問いと難しい問いを作る	1
	宿題ではなく授業で考えたい	1

にする」が挙げられる。「友達との意見交換の時間を作る」のサブコードとしては、「相手を変えて発表する」があった。多様な考えが生徒から出される可能性のある推論発問に対し、クラスの友達がどのようなことを考えたのか知りたいと思っている生徒がいることがわかる。この授業を実施した担当教師への質問紙調査の結果から、この授業では推論発問の答えをクラスで共有する時間をある程度確保していることがわかったが、生徒は教師が考えている以上に、時間を割いて意見や考えを共有したいと考えていることがわかった。「さらに長い文章にする」のサブコードには、「もっと難しい文章にする」があり、よりチャレンジングな推論発問に取り組みたいとする生徒がいることも明らかになった。

推論発問の改善点の第4位の項目として、「英語表現について解説する」があり、サブコードとして、「模範解答例が欲しい」が挙げられた。その他には、「簡単な問いと難しい問いを作る」や「宿題ではなく授業で考えたい」といった項目があった。答えに自由度があり少し難易度が高いという推論発問の特徴を考えれば、推論発問への解答あるいは解答方法への支援を要求する生徒がいることは理解できる。

(3) 評価発問の良い点について

質問16と質問17では、それぞれ評価発問の良い点と評価発問の活用に対する改善点について尋ねた。質問16では、評価発問がよかったかどうかを尋ねた質問15の回答を受けて、そのように答えた理由を尋ねた。その結果、質問16の記述総数は37あり、評価発問の良い点についての回答は30、評価発問に対する否定的および無関係な回答は7あった。質問17で評価発問の改善点を尋ねているため、評価発問に対するこれらの否定的な5つの意見については分析対象から除外し、評価発問の良い点についての30回答のみを分析対象とした。分析の結果、表6に示すように、コードの項目数は6であった。

質問16の結果(表6)を見ると、評価発問の良い点として、「表現力が向上する」が第1位の項目として挙げられる。サブコードとして、「英語を使用する機会になる」、「実践的な英語力がつく」、「英語力の限界を知ることができる」、「コミュニケーション力が身に付く」が挙げられた。評価発問は、テキストに書かれていた内容に対する生徒の意見や考えを英語で自由に表現させるものであり、その点が生徒に肯定的に評価されていることがわかる。

表6. 質問16の結果 (n=30) 評価発問の良い点

順位	コード	人数
1位	表現力が向上する	16
2位	思考力が向上する	5
3位	本文の理解が深まる	4
4位	友達の考えを知ることができる	2
4位	自分で内容をまとめる	2
6位	授業に積極的に参加できる	1

評価発問の良い点の第2位に、「思考力が向上する」が挙げられた。サブコードとして、「思考を整理できる」が挙げられた。評価発問の良い点とする理由の第3位の項目として、「本文の理解が深まる」が挙げられている。このことから、テキスト内容に対する表現をさせる評価発問に生徒が取り組むことで、生徒の思考を促したり、本文内容の理解をさらに深めたりと捉えている生徒がいることがわかる。その他の項目として、「自分で内容をまとめる」、「友達の考えを知ることができる」や「授業に積極的に参加できる」にも注目できる。

(4) 評価発問の活用における改善点について

質問17では、評価発問の活用における改善点について尋ねた。その結果、質問17の記述総数は37あり、そのうち無回答が1、「とくになし」、および「今のままでよい」とする回答が20あり、評

評価発問の活用に対する改善点についての16回答のみを分析対象とした。分析の結果、表7に示すように、コードの項目数は6であった。

質問17の結果(表7)を見ると、評価発問の活用についての改善点の第1位の項目として、「他の生徒と考えを共有したい」が挙げられた。サブコードとして、「意見を交換する時間が欲しい」や「他の生徒の良い表現例を知りたい」があった。評価発問は、テキスト内容に対する生徒の意見や考えを表現させるものであるため、当然、生徒からは異なる意見や考えが出てくる。そのような異なる意見や考えをクラスで共有したいとする欲求が生徒の中に高まったことがうかがえる。

表7. 質問17の結果(n=16) 評価発問の活用における改善点

順位	コード	人数
1位	他の生徒と考えを共有したい	5
2位	考えるためのサポートが欲しい	4
3位	英語での表現方法を教えて欲しい	3
4位	深い思考を求める問いにして欲しい	2
5位	制限時間を設け要約する	1
	日本語でも答えることができない問題は出さない	1

評価発問の改善点の第2位として、「考えるためのサポートが欲しい」が挙げられた。サブコードとしては、「難しい問題はペアワークにして欲しい」、「考えやすい内容にする」、「考える時間を増やす」があった。生徒の意見や考えを自由に述べることのできる評価発問では、英語での表現に対する何らかの支援を希望する生徒が少なからずいることがわかる。これは、改善点の第3位として挙げられた、「英語での表現方法を教えて欲しい」や、そのサブコードとしての「他の生徒の良い表現例を知りたい」でも、評価発問に答えるための英語表現への支援を希望する声と一致する。

評価発問の改善点の第4位として、「深い思考を求める問いにして欲しい」が挙げられた。サブコードとして「考えを書くだけでなく発展させて欲しい」があり、さらに評価発問の工夫をもとめる生徒からの声もあった。その他には、「制限時間を設け要約する」や「日本語でも答えることができない問題は出さない」といった評価発問の内容そのものに対する希望もあった。

V. 結果の考察

1. 英語を使った英語授業の実践について

生徒への質問紙調査の結果から、1年間にわたり教師が英語を使った英語授業を継続的に実践することで、生徒の英語に対する慣れが生じ、英語を中心とした授業スタイルに肯定的に捉えるようになる生徒が多くなったことがわかった。今回の指導にあたった教師に質問紙調査を行った結果から、推論発問や評価発問を活用することの利点として、「生徒が英語で発言する機会を多くもつことができ、英語を話そうとする姿勢が多くなってきたこと」や「授業の雰囲気は活発になり、生徒が生き生きしていること」、「授業のパターンができたため、英語を使った授業が行いやすくなった」ことが挙げられていた。このことから、指導の中で発問をうまく活用することで、英語を使った英語授業を効率的に進めることができる可能性があることがうかがえる。

2. 英語の読解力と表現力の伸びについての生徒の認識

生徒に対する質問紙調査において、1年間にわたり発問を活用した指導を通し、英語で読解する力と表現する力が伸びたと思うかどうかを生徒に尋ねた結果、英語での読解力と表現力に伸びがあったと感じている生徒が多いことが明らかとなった。これらの結果は、発問を通じた指導の中で、テキスト理解、および、テキスト内容に基づく表現が、効果的に促されていると生徒自身が捉えていることからくるのではないかと考えられる。ただし、今回の調査は質問紙に基づき、読解力と表現

力に伸びがあったかを生徒に尋ねたものであり、読解力テストや表現力テストを実施した結果、読解力や表現力の向上が見られたわけではない。したがって、発問を活用した読解指導が、生徒の読解力や表現力を向上させるかどうかについて今後検証を行う必要がある。

3. 推論発問および評価発問の活用についての生徒の認識

今回の実践指導の中で用いられた推論発問および評価発問について、生徒に対する質問紙調査の結果、全体的に、推論発問および評価発問に対し肯定的に捉えている生徒が多いことがわかった。これらの結果が得られた理由については、推論発問の良い点として、内容理解が向上するとの回答が多く挙げられ、次いで、思考力が向上する、表現が自由にできる、何度も繰り返し読むことができる、といった点が評価されたことが、生徒に対する質問紙の自由記述の回答結果から考えられる。一方、評価発問の良い点としては、表現力が向上するとの回答がもっとも多く、思考力が向上する、本文の理解が深まる、友達の考えを知ることができる、などといった回答が次いで多いことが挙げられた。以上の結果から、推論発問、および、評価発問は、それぞれ発問がもつ特徴通り、推論発問は本文テキストの内容理解を促したり深く思考させたり、評価発問は本文テキストをもとに自分の考えを英語で表現させたりするのに役立つと生徒から肯定的に捉えられていることがわかる。

今回の実践における推論発問および評価発問に課題がないわけではないことも明らかとなった。生徒に尋ねた質問紙の自由記述の結果から、推論発問の課題として、問いを易しくする、友達との意見交換を作る、英語表現について解説する、といった回答が多いことがわかった。今回の実践を行った教師に発問を活用する際のポイントを尋ねたところ、「推論発問や評価発問に答えることができるよう事実発問を含めた発問の順序に注意する」や「発問に対して生徒が何をどのように答えればよいか明確にわかるようシンプルな問いを心掛ける」、「生徒からの様々な意見に触れることができるよう生徒のユニークな意見や表現をまとめて印刷し配布し共有する」ことを挙げており、指導を実践した教師自身も、推論発問の難易度を下げたり、友達と考えを共有させたりといった、よりきめ細かな支援が必要であることを感じていることがわかった。

評価発問の課題としては、他の生徒と考えを共有したい、考えるためのサポートがほしい、英語での表現方法を教えてほしい、などとする回答が多かった。実践を行った教師に対する質問紙調査の結果からは、他の生徒と考えを共有することや英語表現を支援することに注意して指導を行ってきたにもかかわらず、生徒は英語表現の支援をさらに希望していることがわかった。推論発問、評価発問いずれの場合であっても、生徒の理解や表現を促すためのよりきめ細やかな発問の活用が求められることがわかる。

VI. まとめ

本研究は、1年に渡る長期的な実際の指導実践の中で、読解指導の発問が、どのような効果をもたらし、また発問の活用にどのような課題が見られるのかについて調査した。本研究における英語リーディング指導における発問活用に関する調査の結果は、次の通りである。

- (1) 1年間にわたり教師が英語で発問を行った授業を継続的に実践することで、生徒の英語に対する慣れが生じ、英語を中心とした授業スタイルに肯定的に捉えるようになる生徒が多くなったことがわかった。
- (2) 1年間にわたり発問を活用した指導を通し、英語で読解する力と表現する力が伸びたと思うかどうかを当該の生徒に尋ねた結果、英語での読解力と表現力に伸びがあったと感じている生徒

が多いことが明らかとなった。

- (3) 今回の実践指導の中で用いられた推論発問および評価発問について生徒に尋ねた結果、全体的に、推論発問および評価発問に対して肯定的に捉えている生徒が多いことがわかった。
- (4) 推論発問の良い点として、内容理解が向上するとの回答がもっとも多く挙げられ、次いで、思考力が向上する、表現が自由にできる、何度も繰り返し読むことができるが、挙げられることがわかった。
- (5) 推論発問の課題としては、問いを易しくする、友達との意見交換を作る、英語表現について解説するなど、といった回答が多かった。
- (6) 評価発問の良い点としては、表現力が向上するとの回答がもっとも多く、思考力が向上する、本文の理解が深まる、友達の考えを知ることができる、などといった回答が次いで多いことがわかった。
- (7) 評価発問の課題としては、他の生徒と考えを共有したい、考えるためのサポートがほしい、英語での表現方法を教えてほしい、などとする回答が多かった。

以上の結果は、一般化できるほど量的に十分なデータがあるとは言えないため、参考程度にとどめる必要がある。しかしながら、質問紙調査の結果から、推論発問および評価発問を実際に活用した授業を受けた生徒の生の声を聞くことができた。発問を活用した実際の英語リーディング指導において、発問の中でも推論発問や評価発問の活用に対し、生徒がどのような捉え方をしていたのか、そして、推論発問や評価発問を活用する上でどのような課題があるのかについて垣間見ることができた。推論発問や評価発問を活用した読解指導の工夫の余地はあるものの、テキスト内容を深く理解させたり、テキスト内容に対する生徒の考えや意見を英語で表現させたりすることができる可能性がある。つまり、学習指導要領で求める生徒の思考力・判断力・表現力を育成するために、推論発問や評価発問が有効に機能する可能性があるものと考えられる。また、リーディング教材を中心とした読解指導の中でも、推論発問や評価発問を授業の中で効果的に活用することで、英語の表現力を育成することができる可能性も指摘できる。これらのことが一般化できるかどうか今後も引き続き検討していく必要がある。

本論では、読解指導における発問のあり方を探るために、質問紙調査をもとに、長期にわたる読解指導実践における発問の効果および課題について考察したが、実際の読解テストおよび表現テストにおいて、発問を用いた指導効果が見られるのか検証する必要がある。また、個々の授業の中で実際にどのように発問が活用され、どのように生徒の理解および表現が促されていくのか、などについて今後さらに深く検討していく必要がある。

引用文献

- Been, S. (1975). Reading in the foreign language teaching program. *TESOL Quarterly*, 9, pp.233-242.
- Kikuchi, K. (2009). English education policy for high schools in Japan: Ideals vs. reality. *RELC Journal*, 40 (2), pp. 172-191.
- 深澤清治. 2008. 「読解を促進する発問作りの重要性：高等学校英語リーディング教科書中心の設問分析を通して」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』第 57 号. pp. 169-176.
- 深澤清治. 2010. 「高等学校英語リーディング教科書分析：推論および自己表現を促す発問を中心に」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』第 59 号. pp. 195-202.
- 田中武夫, 田中知聡. 2009. 『英語教師のための発問テクニック：英語授業を活性化するリーディング指導』東京：大修館書店

- 田中武夫, 島田勝正, 紺渡弘幸 (編著). 2011. 『推論発問を取り入れた英語リーディング指導：深い読みを促す英語授業』 東京：三省堂
- 田中武夫. 2010. 「英文読解における推論発問をもとにした協同学習について」『山梨大学教育人間科学部紀要』 第11巻 pp. 182-192.
- 田中武夫. 2014. 「英語読解指導における足場掛けとしての推論発問の活用」『第2言語習得研究と英語教育の実践研究』 pp. 205-216. 山岡俊比古先生追悼論文集編集委員会編. 東京：開隆堂
- 文部科学省. 2009. 『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』 東京：開隆堂

資料1：質問項目

- 質問 2. 4月の時点（高校1年の4月）で、英語で行う英語授業に不安を感じましたか？
(1. まったく不安を感じなかった 2. あまり不安を感じなかった 3. どちらでもない
4. やや不安を感じた 5. とても不安を感じた)
- 質問 4. 2月の時点（2014年の2月）で、英語で行う英語授業に不安を感じましたか？
(1. まったく不安を感じなかった 2. あまり不安を感じなかった 3. どちらでもない
4. やや不安を感じた 5. とても不安を感じた)
- 質問 6. 英語で行う英語授業を受けてよかったと思いますか？いずれかに○をつけてください。
(1. まったくよかったと思わない 2. あまりよかったと思わない 3. どちらでもない
4. ややよかったと思う 5. とてもよかったと思う)
- 質問 10. この1年間であなたの英語で読む力は伸びたと思いますか？
(1. まったく伸びたと思わない 2. あまり伸びたと思わない 3. どちらでもない
4. やや伸びたと思う 5. とても伸びたと思う)
- 質問 11. この1年間であなたの英語で表現する力は伸びたと思いますか？
(1. まったく伸びたと思わない 2. あまり伸びたと思わない 3. どちらでもない
4. やや伸びたと思う 5. とても伸びたと思う)
- 質問 12. 毎回の英語授業の後半で行った読みを深める問い（行間を読む問い）はよかったと思いますか？
(1. まったくよかったと思わない 2. あまりよかったと思わない 3. どちらでもない
4. ややよかったと思う 5. とてもよかったと思う)
- 質問 13. 問12で答えた理由は何ですか？
- 質問 14. 問12で答えた読みを深める問いを今後も行なうとすれば、改善してほしいと思う点は何ですか？
- 質問 15. 毎回の英語授業の後半で行った本文内容について自分の考えを表現する活動はよかったと思いますか？
(1. まったくよかったと思わない 2. あまりよかったと思わない 3. どちらでもない
4. ややよかったと思う 5. とてもよかったと思う)
- 質問 16. 問15で答えた理由は何ですか？
- 質問 17. 問15で答えた自分の考えを表現する活動を今後も行なうとすれば、改善してほしいと思う点は何ですか？

資料2：コードと記述例

表8. 質問13（推論発問の良い点）のコードと記述例

コード	サブコード	自由記述
内容理解が向上する	内容理解が向上する	本文の内容が理解しやすくなったから
	概要理解が促進される	内容の趣旨をうまく理解する必要があるから
	内容理解が深まる	英文の内容についてより理解を深めることができたから
思考力が向上する	思考力が向上する	いつもは何となく読み飛ばしてしまうところを考えるのに頭を使うから
	応用力が身に付く	最低限の能力のみならず応用的なところもカバーできていた学習であるから
	想像力が身に付く	想像力が身につくから
表現が自由にできる	表現が自由にできる	自分の意見を出せるから
	友達の考えがわかる	他の人の捉え方を知ることができたから
何度も繰り返し読む		理解するために本文を何度も読めるのでいいと思うから

資料3：教師への質問紙項目とその回答

質問1：英語のみの授業で発問を活用する際の成功のポイントは何か？複数回答可

- 1) 推論発問や評価発問に答えることができるよう事実発問を含めた発問の順序に注意する
- 2) 発問に対して生徒が何をどのように答えればよいか明確にわかるようなシンプルな問いを心掛ける
- 3) 最初は生徒が発問にうまく答えることができないが、粘り強く発問を活用した指導を継続する
- 4) 生徒からの様々な意見に触れることができるよう生徒のユニークな意見や表現をまとめて印刷し配付し共有する
- 5) 生徒が表現する際のサポートをしっかりと行う

質問2：英語のみの授業で発問の活用に失敗したと感じるときの原因は何か？複数回答可

- 1) 発問の内容を十分に練ることができていないとき
- 2) 発問のレベルが生徒のレディネスに合っておらず難しすぎるとき

質問3：推論発問や評価発問を活用してよかった点は何か？複数回答可

- 1) 生徒が英語で発言する機会を多くもつことができ、英語を話そうとする姿勢が多くなってきたこと
- 2) 自分の意見を表現することに躊躇しない生徒が増えてきたこと
- 3) 生徒の模擬試験の成績結果、とくにライティングの成績が上がってきたこと
- 4) 英語が苦手という生徒が減り、英語が得意という生徒が増えたこと
- 5) 授業の雰囲気が活発になり、生徒が生き生きとしていること

質問4：発問づくりで苦労したことは何か？複数回答可

- 1) 授業の準備が大変である
- 2) 授業の最後にどのような評価発問を尋ねるかを考えること
- 3) 評価発問につなげるために毎パートでどのような事実発問や推論発問をすべきかを考えること

4) これまで考えてきた事実発問の内容がこれでよいものかどうか不安である

質問5：推論発問や評価発問で改善したいことは何か？複数回答可

1) 発問と発問の流れを途切れさせずにいかに生徒に問いかけるか。テキストの難易度も関係していると思う。テキスト内容を生徒がしっかりと理解できているかどうか重要である

質問6：発問を活用するリーディング指導を行ってきて自分が変化したことは何か？複数回答可

1) 教材研究がとても楽しくなったこと。言語材料の指導よりも内容重視に変化したため、授業が楽しくなった

2) 授業のパターンができたため、英語を使った授業が行いやすくなった

3) 電子辞書に対する態度が変わった。今回の実践を始めるまでは紙の辞書を使うべきであると考えていたが、発問を中心とした授業を行うようになった結果、英語で表現させる機会が増え、電子辞書は生徒の表現を助ける道具になると考えるようになった